

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町1-32

出版クラブビル6階

TEL 03(5244)5270

FAX 03(5244)5271

発行人 小塚 昌弘

編集人 片岡 伸子

No.661 = 野間読書推進賞特集 =



受賞者とその推薦者・関係者と、野間省伸会長、選考委員のみなさん



2022年(令和4年)

野間読書推進賞受賞者表彰(第52回)

☆受賞者

団体の部

・萌えぎの会

(群馬県)

・近江八幡おはなし研究会

(滋賀県)

個人の部

・渡邊 満洲子さん

(愛知県)

奨励賞

・法崎 よし子さん

(大分県)

功労賞

・山本 清治さん

(鹿児島県)

☆賞

賞状および賞牌

☆副賞

金三十万円(団体の部)

金二十万円(個人の部)

金五万円(奨励賞)

金五万円(功労賞)

野間読書推進賞は、永年にわたって読書の普及に力を尽くし、読書推進運動に貢献された団体・個人を、全国から寄せられる推薦のなかから選り、顕彰するもので、毎年、「読書週間」の期間中に贈呈式が行われています。

× × ×

本年の贈呈式は、11月7日(月)午前11時から、東京都千代田区の出版クラブビルにおいて、受賞団体の代表者および受賞者(代理含む)。法崎さんは都合により欠席。4名と推薦者など受賞者関係者、読書推進運動関係者の出席のもとに開催されました。

野間省伸・公益社団法人 読書推進運動協議会会長の挨拶。次に選考委員会を代表し、黒木義博さんが選考経過報告を行い、野間会長より受賞者へ賞が贈呈されました。続いて、文部科学省 総合教育政策局 地域学習推進課長 黄地吉隆さんの祝辞が代読されたあと、各受賞者が挨拶に立ちました。

本年も昨年、一昨年同様、新型コロナウイルス感染症対策のため、規模を縮小して、贈呈式のための開催となりました。検温とマスクの着用、手指の消毒などへの、出席者みなさまのご協力とご理解に感謝申し上げます。

受賞者業績

《団体の部》

萌えぎの会

住所 群馬県前橋市
会長 猿木 尚子 さん

1973年(昭和48年)、公民館の婦人講座卒業生10人が、「絵本を読んだら、子どもも母親も喜ぶのではないか」と市立図書館司書に提案されて、月2回のおはなし会を始めました。また前橋に

「読み聞かせ」ということが定着していなかったことです。翌1974年(昭和49年)4月に、ボランティアに徹し、子どもたちに読み聞かせを通して、豊かな感性を育てる」ことを目的に、萌えぎの会が発足しました。

萌えぎの会の活動の特徴は、読み聞かせと歳時記飾りの2本の柱で構成されていることです。1本目の柱、読み聞かせは、活動の拠点である前橋子ども図書館を中心に、保育所や児童養護施設、高齢者施設で継続してきました。「子

どもが喜んでくれることが、本好きにつながる」の信念から、おはなし会では手作りのパネルシアター、ペープサート、紙芝居に、昔話や民話の語り、音楽も取り入れています。また、牛乳パックを使ったからくり絵本作りなどのワークシヨップも開き、子どもたちの創造力、好奇心を高めています。市のブックスタート事業へは、開始時より読み聞かせの協力を続けています。

柱の2本目、歳時記飾りは、受け継がれてきた季節行事がだんだん行われなくなっている状況の中、子どもたちに本物にふれてほしいとの思いから始まりました。曆にあわせて、会員たちが持ちよったこいのぼりや雛人形などが、前橋子ども図書館を彩ります。特大のこいのぼりが図書館を泳ぎ、書架の上に年代物の雛人形が鎮座するのを、毎年、子どもたちは夢中で見入ります。

萌えぎの会は、長きにわたり、地域の読書推進を牽引してきました。その背景には、柔軟な運営に

より培われたチームワークと、たゆまぬ自己研鑽があります。長い時間で培われてきた読み聞かせは、読み聞かせ初心者である保護者のお手本にもなっています。また、1990年(平成2年)には、渋川市図書館の読み聞かせボランティアの会「もえのこ」が萌えぎの会から独立して、活動を始めています。

前橋市内各施設でのおはなし会に加え、群馬県および高崎市からもワークシヨップやおはなし会の依頼がくるなど、創立50周年に向け、読書の楽しさと喜びを多くの人びとに広げる活動を精力的に展開しています。

【推薦者】

前橋市立図書館
館長 齋藤明子



《団体の部》

近江八幡おはなし研究会

住所 滋賀県近江八幡市
会長 工藤 雅子 さん

近江八幡おはなし研究会の歴史は、1961年(昭和36年)から始まります。児童サービスに力を入れていた近江兄弟社図書館(現近江八幡図書館)を利用していた母親たちが、「もつと子どもたちにおはなしの世界を楽しんでもらいたい」「幼児期における絵本が、子どもにとっては心の成長に大きく関わることを、もつと広く市民に知ってほしい」と、子どもと母親への読書普及に立ちあがりました。絵本や児童書の勉強会を重ね、1967年(昭和42年)からは本格的にストーリーリングの研修会・講座を開催しています。その後、1975年(昭和50年)に、近江八幡おはなし研究会と改組。以来、創立時の思いは揺らぐことなく、子どもたちへはおはなし会を、大人たちへは研修会や講座を提供してきました。

おはなし会は、近江八幡市立図書館、コミュニティセンターで毎月実施。そのほか、保育園・小学校・

中学校・高校・子育て支援施設などでも、絵本と語りの会を開いています。また、近江八幡市のブックスタート事業にもボランティアとして参加し、読み聞かせを上演、保護者に絵本やことばかけの大切さを伝えています。

研修では、滋賀県内外の語り手の交流会「おはなし交流会」、ストーリーリングの講座、「近江昔ばなし大学」や子どもの読書に関わる講演会を開いてきました。招いた講師は、松居直さん、中川李枝子さん、神沢利子さん、渡辺茂男さん、小澤俊夫さん、竹内恵さんなど、同会の歴史と実力を感じさせる名前が並びます。

同会の活動は滋賀県内外におよび、「ストーリーリング」といえば近江八幡おはなし研究会」と広く認知され、メンバーが講師として招かれることもしばしばです。近江八幡市においては、子ども読書活動推進計画委員、図書館協議会委員などを歴代会長が務めるなど、市の読書普及に尽力してきました。

半世紀以上にわたり、子どもと本を結びつけ、質の高いストーリーリングでおはなしの魅力を広め、子どもたちの読書環境の充実に力を尽くしてきた、近江八幡

おはなし研究会の活動は、滋賀県文化奨励賞をはじめ県内で多く顕彰され、また、2004年(平成16年)には、子どもの読書活動優秀実践団体として文部科学大臣表彰を受けています。

【推薦者】

近江八幡市立図書館
館長 奥村恭代

《個人の部》

渡邊満洲子 さん

住所 愛知県北設楽郡設楽町

渡邊満洲子さんは、旧満州で生まれました。父が毎晩、日本の昔話や創作物語を語ってくれるのを楽しみに聴いて過ごしていたといいます。その後、東京での幼少期を経て、終戦のひと月前に父の故郷・愛知県津具村(現 設楽町)に疎開します。

長じて津具村出身の渡邊弘さんと結婚し、名古屋市内へ引越した渡邊さんは、児童文学の市民講座の受講をきっかけに、幼いころより心をよせていた児童文学研究、読み聞かせをもっと学ぼうと、1972年(昭和47年)に仲間と「児童文学 波の会」を立ち上げ、研究と実演を重ねてきました。そ

の当時から、「いつかは故郷で子ども文庫を開きたい」と願い、こつこつと絵本・児童書を収集していました。

お連れあいの定年退職を機に、1993年(平成5年)に津具村へ戻った渡邊さんは、長年の夢、家庭文庫開設に向け、本格的に始動。翌1994年(平成6年)に1800冊の児童書をもとに、「きらきら文庫」を開きます。文庫の名前には、「地域の人たちとともに、太陽のように輝きたい」「津具のまばゆい星空のように輝く心」の願いが込められています。

当時の津具村は図書館も書店もなく、また、移動図書館の訪問回数も少ない状況でした。その中で「きらきら文庫」は地域の子どもたちが本や語りを楽しみ、津具に移住してきた人たちや子育て世代の集いの場として、地域に必要な場所となりました。

文庫は、渡邊さん在宅時は随時開放されており、赤ちゃんから高校生まで、毎日多くの子どもたちでにぎわい、そして大学生や社会人になった元利用者たちも帰省時に訪れます。一人ひとりの子どもと向きあい、その幼少期を「楽しく幸せな時間にしたい」と願う渡邊さんを、子どもたちは「ばあば」と呼んで慕っています。

1997年(平成9年)には、利用者である母親たちに声をかけ、朗読グループ「語りの会」を発足、保育園や小学校での朗読・読み聞かせや、年一回の音読フェスティバルを開催。また、子育て世代に向けた講習会も開き、後進の育成にも取り組んでいます。

子どもものの本の素晴らしさを信じ、子どもたちへの愛情に裏打ちされた渡邊さんの活動は、ただ子どもに本を手渡すだけではなく、読書を通じた人と人との結びつき、地域の読書推進の未来へとつながっています。

【推薦者】

公益財団法人伊藤忠記念財団
理事長 鈴木善久

《奨励賞》

法崎よし子 さん

住所 大分県竹田市

が生かせるのではないか」と応募しました。これ以降、今日にいたるまで、竹田市の読書推進に尽力されています。

法崎さんの活動の特徴は、0歳児から就学前幼児とその保護者を主な対象とする点にあります。現在は、市立図書館で毎週一回開かれる「おはなしひろば」での絵本の読み聞かせ、市立竹田幼稚園園児を対象とした月一回の「おはなしルーム」での読み聞かせ、乳児健診時会場で開かれるブックスタートで4〜5か月児と保護者を対象とした読み聞かせを年6回、図書館の「夏休み図書館まつり」「クリスマス・キャロル」でのボランティアと読み聞かせを定期的に行っています。コロナによる若干の活動休止期間はあったものの、「おはなしひろば」はのべ500回、「おはなしルーム」はのべ100回を超えて継続されています。

読書の基礎を作る子ども時代にもかかわらず、大本となる乳幼児への継続した働きかけはたいへん重要です。法崎さんの活動が地域の子どもたちにもたらす効果は、計り知れません。

赤ちゃんと保護者が一緒に過ごす時間と、赤ちゃんが絵本にふれるきっかけが作れることがうれし

いという法崎さん。抱っこされて読み聞かせに来ていた子どもが、伝い歩きを始め、「いまでは小学生」と、子どもたちの成長過程を見守る喜びが、活動の大きな原動力です。

【推薦者】

竹田市立図書館
館長 後藤方彦



《功労賞》

山本 清治 さん

住所 鹿児島県鹿屋市

1934年(昭和9年)生まれの山本清治さんが西侯国民学校(現鹿屋市立西侯小学校)に入學したのは、太平洋戦争が始まった1941年(昭和16年)。5年生のときに、終戦を迎えています。戦争末期には、軍が校舎を利用し、近くの神社へ机を運んで授業をしたこともありました。教科書さえ満足になく、兄弟からのお下がりをクラスで回し読みしていたといえます。思うように勉強や読書ができなかった無念を抱え、山本さんは成長しました。

大人になった山本さんは「地元が喜ぶことをしたい」と、母校西侯小学校の掲示板作りなどを手伝いました。その後、長女の入学直前の1963年(昭和38年)に、「自分が読めなかった分、今の子どもには本をいっぱい読んでほしい」と、図書費の寄附を始めました。寄附は今年まで毎年続いており、通算60年、総額100万円以上になります。西侯小学校では山本さんの寄附で購入した図書

を「山本文庫」と名づけ、山本文庫のラベルを付けて図書室に設置し、子どもたちに紹介しています。現在、「山本文庫」は冊数にして1200冊以上となっています。

本年1月に、山本さんは西侯小学校を訪ねました。全校児童からの感謝状と寄せ書きを受け取った山本さんは、子どもたちに「お年玉のつもりで続けていたら、あつという間の60年だった。本をたくさん読んで、立派な大人になつてください」と挨拶。「卒業したら、私も山本さんのように子どものためになることをしたい」という子どももあり、その思いは着実に子どもたちに受け継がれています。

【推薦者】

鹿屋市教育委員会
教育長 中野健作



★受賞決定までの経過

●2022年令和4年5月13日
全国都道府県教育委員会委員長および教育長、都道府県中央図書館および読書推進運動協議会のほか、全国市町村教育委員会連合会、日本PTA全国協議会、日本新聞協会、日本放送協会、日本民間放送連盟などに候補者推薦を依頼しました。

●2022年令和4年7月29日
候補者推薦締切。推薦数は16団体、3個人。

●2022年令和4年8月29日
野間読書推進事業委員会による選考準備委員会を開催。各候補者への評価・その理由を討議し、8団体3個人を選出。これについて事務局はさらに実情調査などの結果をまとめ、選考委員会に提出しました。

●2022年令和4年9月20日
選考委員会を開催。慎重な審査の結果、2団体1個人の野間読書推進賞、2個人の野間読書推進奨励賞受賞を決めました。その後、奨励賞内定者山本清治さんが本年9月9日に亡くなられていたとわかり、選考委員・事業委員長の協議

☆選考委員

秋本 敏

公益社団法人 日本図書館協会

図書紹介事業委員会委員長

黒木義博

公益社団法人 全国学校図書館協議会

協議会 読書活動振興プロジェクト担当

野上 暁

児童文学・文化研究家

一般社団法人 日本国際児童図書

評議会 副会長

(五十音順・敬称略)



選考経過報告をする
黒木義博さん

★野間読書推進賞について

公益社団法人 読書推進運動協議会は、出版界と読書界との協働をはかり、広く国民各層に対し、読書の普及を促進し、もつてわが国の文化と社会の進展に寄与することを目的として、1959年(昭和34年)に創立。以来、「読書週間」をはじめ多くの事業を行っております。

「野間読書推進賞」は、「読書週間」の関連事業として1971年(昭和46年)に創設したもので、地域・職域などにおいて、永年にわたって読書の普及に力を尽くし、読書推進運動に貢献された団体・個人を顕彰してまいりました。

この賞は1969年(昭和44年)、講談社社長・野間省一氏(当時・故人)から、読書推進運動協議会が社団法人となつたことを機に、基本財産として金1千万円、その後、講談社創業70周年、80周年を記念して計3千万円の寄付を受け、その基金を中心に贈呈しています。

第1回から第14回までを「読書推進賞」と称し、1985年(第15回)から、故人の遺徳を偲んで「野間読書推進賞」と改称しました。



野間読書推進賞賞牌

挨拶と祝辞



贈呈式 主催者挨拶

公益社団法人 読書推進運動協議会

会長 野間 省伸

本日「野間読書推進賞」を受賞されるみなさま、ほんとうに、おめでとうございます。

ご選考にあたられた秋本敏さま、黒木義博さま、野上暁さまのお三方、ほんとうにありがとうございます。

今年は久しぶりで、公的な行動制限のない秋を迎えることができましたが、新型コロナウイルスが終息した訳ではなく、大事を取って人数を限定しての開催となりました。お忙しいなか、ご列席くださいましたみなさまに厚く御礼申し上げます。

「野間読書推進賞」は、長く読書の普及に力を尽くし、読書推進運動に貢献してこられたみなさまに

対して贈られます。1971年に始まり、今回、第52回を迎えました。

本日は本賞2団体・1個人、奨励賞おひとり、功労賞おひとりをお表彰いたします。本日受賞されるみなさまを含めて、受賞者は242の団体・個人の方々を数えます。

また現在、第76回読書週間が開催中です。今回のポスターは、標語「この一冊に、ありがとう」をモチーフに、「本を象徴するキャラクター」に、読者が感謝の花をささげている」という詩情あふれるものに仕上がっております。

コロナ下で、読書推進運動もさまざまな制約を受けましたが、本日の受賞者の方々も含めて、現場で活躍していらつしやるみなさまの活動報告や、ご感想をおうかがいしますと、一人ひとりの方と笑顔を交わしながら、手を取りあつて、本に親しむ時間を持つことの大切さ、そのすばらしさを強く感じました。



開式の挨拶をする
野間会長

じました。

この出版クラブのあります、本の街・神保町でも、先月末、「第30回 神保町ブックフェスティバル」が3年ぶりに開催され、出版社100社が本のワゴンセールを行つて、多くのお客さまが、掘り出しものの本を求めておられました。世界は未来に向けて動き出しています。

読書推進運動にかかわるみなさまが、以前にもまして、活発に、自由に、そして安全に活動できる日が来ることを願ひまして、私のご挨拶といたします。

祝 辞

文部科学省 総合教育政策局
地域学習推進課長

黄地 吉隆

本日受賞されたみなさま、またこれにおめでとうございます。

受賞されたみなさまは、各地域において長年読書活動の推進に精力的に取り組まれ、地域における読書活動の普及に大きく貢献されてこられました。本日の受賞について、心からお祝いを申しあげるとともに、みなさまの読書普及への熱意ある取組に対し、深く敬意を表します。

人生100年時代、Society 5.0の到来、デジタル化の急速な進展、新型コロナウイルス感染症への対応など、変化する社会において、予測困難な時代が到来しているといわれております。このような時代に子どもたち一人ひとりが変化を前向きに受け止め、未来の社会を自立的に生きていくために、読書は欠くことのできないものです。

読書は、ことばを学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけることができます。子どもは、読書を通じて、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを体得し、さらなる探究心や真理を求める態度が培われます。このような効果が期待できる読書活動を社会全体で推進していくことは、きわめて重要であると考えております。

政府としても、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、環境の整備を積極的に推進することを基本理念とする「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、おおむね5年に一度「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定しています。今年度は、現行の基本計画の最終年度となります。文部

第52回 野間読書推進



地域学習推進課 図書館・学校図書館振興室専門官の工藤松太郎さんが会場で代読

科学省では、次期基本計画の策定に向けて、有識者会議での議論を踏まえ、検討を進めているところであり、子どもの読書活動がいつそう推進されるよう、さまざまな取組に取り組んでまいります。

読書推進運動に取り組まれているみなさまにおかれては、子どもたちの豊かな読書環境の実現のため、これまでの知見や経験、そして専門性を生かし、引き続き読書活動の推進にご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年度第52回を迎えられました、この「野間読書推進賞」をはじめとする読書活動の推進に、長年にわたり取り組まれている公益社団法人読書推進運動協議会および関係者のみなさまに心から敬意を表するとともに、本日ご参集のみなさまますますのご活躍とご健勝を祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。

野間読書推進賞を受けて



信頼しあう仲間と活動を
重ねて新しい景色を

萌えぎの会

会長 猿木 尚子(群馬県)

このたびは荣誉ある賞を賜り、会員一同より感謝申しあげます。ご推薦いただきました前橋子ども図書館長さまより「初代会長にお伝えしたかったですね」とおこぼをいただき、熱いものが込み上げました。今年の8月末に旅立った初代会長も、きつと喜んでくれていると思います。

萌えぎの会は、まだ読み聞かせということばも耳慣れないころに、中央公民館婦人講座の卒業生10名が市立図書館司書の助言により読み聞かせを始め、絵本の楽しさを伝え豊かな感性を育てることを目的として1974年に発足し

ました。私は大学生のときにオーディオンで参加しましたが、3畳ほどの親子読書室に集まる多くの小学生たちの楽しそうな様子が今も蘇ります。季節の行事を知ってもらおうと、本物の笹を持ち込んで飾った七夕飾りはみごとでした。みんなで制作した大型紙芝居などを披露したとき、目をキラキラさせた子どもたちの様子は大きな喜びでした。

長年の活動を支えてきたのは、会独自の研修を行う定例会と仲間との信頼関係です。同じ目標に向かうエネルギーは熱いなかにもあたたかさがあり、いつも笑顔でいっぱいです。それが「萌えぎ」の大きな魅力と感じます。

前橋子ども図書館のオープンに機に活動の拠点が移りました。参加する子どもたちも低年齢化していますが、パパママ、おじいちゃんおばあちゃん、みんなで楽しんでもらいたいと、手遊びやパネルシアターなども取り入れています。折り紙のお土産も大好評です。それぞれの場で個性を発揮し活躍する仲間に驚きと発見の連続です。

歳時記飾りでは本物を届けたらいいで、五節句とクリスマススの飾りをしていきます。特大のこいのぼりが館内を泳ぎ、年代物の兜やお雛さまが鎮座します。それを真剣に見つめる親子連れを見るたび、これからも日本の古きよき伝統を伝えていきたいと思います。牛乳パックを利用したからくり絵本ワークショップも毎年開催され、世界でひとつの絵本がたくさん生まれています。

会で学んだことを地域に活かそうと外にも目を向け、介護施設、認

定子ども園など活動の場も広がりました。会員は当初から活動する大先輩のみなさま(最高齢92歳)、そして4人の新会員も加わり総勢26名になりました。みんな、絵本が大好き、子どもたちが大好きです。今回の受賞を励みにこれからも読み聞かせの研鑽を積み、発足当初からの二本柱、絵本の楽しさ、季節の行事をより多くのみなさまに届けていきたいと思います。私たちは2年後、50周年を迎えます。どんな景色が待っているか、今からワクワクしています。



「二」萌えぎの会のみなさんと前橋子ども図書館の堀越規子館長(2列目右端)賞状と桶を持っているおふたりは、創設時からの会員です
「五」子どもたちに本物を「の思いが詰まった歳時記飾り。端午の節句には凧や五月人形が飾られ、みことなこいのぼりが悠々と図書館を泳ぎます

⇒受賞者挨拶では楽しい実演も披露してくれました



⇒工夫をこらした牛乳パックのからくり絵本



野間読書推進賞を受けて



多くの先生よりいただいた
教えがなによりの宝

近江八幡おはなし研究会

代表 工藤 雅子(滋賀県)

私たち「近江八幡おはなし研究会」は、ストーリーテリングを中心に絵本も活用することを基本としたプログラムを立て、月に一度、図書館とコミュニティセンターの2か所を定例会場として活動しています。

語るためには覚え、何度も何度も声に出して練習しなければなりません。今でこそ自分流ができましたが、新メンバーは覚え語るのに、なかなか苦労しています。

私が活動に参加した40余年前、当時は自分たちの勉強にと、松岡享子先生や間崎ルリ子先生を招いての実地研修をしていました。子

どもへの本やおはなしの差し出し方、おはなしを語るといふことの意味などを叩き込まれました。このときの学びは、今も私たちの宝となつていきます。近年も同様の研修を浜松の松本なお子氏にいただいたき、ときどきたるんだ背筋を伸ばしております。

たくさんの子どもたちに、楽しさを伝えたく、図書館以外にも活動範囲を広げてゆきました。小学校からは、学期ごとに全クラスでの1時間の授業を頼まれるようになり、うれしく、勇んでまいっていました。けれども近年のコロナの流行には勝てず、残念ながら現在は高校2校のみ、年に一度の会を継続しています。

徐々に会費の蓄えが増えてきたときに、図書館の協力のもとに、県内外に連絡網を作り、子どもの本に関心を持つてもらおうと、絵本作家の講演と原画展を企画しました。これにはこどものとも社さんのお力をすいぶんお借りしました。こうして10年間毎年、講演会を企画し、チラシを配布し続けてきました。おかげで多くの人が来

しみながら参加してくださいました。実り多い10年でした。

特に松居直先生、小澤俊夫先生にお会いし、お話をうかがえたことは大きな恵みでした。

小澤先生には20年の間「昔話について」学ばせていただきました。代々語り伝えられてきた昔話は、無駄なことが削ぎ落とされ、骨格がしっかりとっていて、子どもたちにとつては、耳から聞いてわかりやすいこと。そのうえ、ありがたいことに、われわれにとつても覚えやすく語りやすいこと。そし



てなにより、昔話には「生きる知恵」・幼子・末っ子・愚かものなどを励まし、知恵を使って活躍するさまが描かれていることを学びました。

おはなしを聞いてくれる子どもたちがいるかぎり、絵本とおはなしを届けてゆきたい。仲間とともに背筋をしゃんとして、語り伝えてゆきたいと思っております。

第52回 野間読書推進賞贈呈式



「上」近江八幡おはなし研究会が企画した金恵子さん原画展での読み聞かせ
「右」近江八幡おはなし研究会のみなさんと、近江八幡市立図書館の奥村恭代館長(右端)、野間会長

⇒講演後の内田莉沙子さんと、同行された板東悠美子さんを囲んで



⇒野間会長より賞状を受ける
工藤雅子さん



野間読書推進賞を受けて



きらきら文庫だより／山の中のちいちゃな活動から

渡邊満洲子（愛知県）

このたび、2022年11月7日「読書推進運動協議会」による表彰をいただきましたこと、深く感謝いたします。

私は、1994年、名古屋市中から、夫の故郷、愛知県奥三河の設楽町津具へのUターンで29年になります。帰るにあたり、私の世界を持ちたいと切実に思い、名古屋の仲間たちと培ってきた図書館での「読み聞かせを生かしたい」と、当時図書館のなかった地域に「自宅を開放して『文庫』を作ろう」と思い、地域のみなさまや名古屋の仲間たちの力添えをいただき、「きらきら文庫」を1994年に

開設いたしました。

運営にあたるお母さんたちも決まり、「きらきら文庫」に子育て中のお母さんたちが誘いあいながら集まり、絵本の読み聞かせのなかで絵本を楽しみ、そして成長していく姿とともにし、私も成長できたことを確信しました。

文庫での読み聞かせを保育園の誕生会に、小学校の月例の読み聞かせ会に、町の文化祭に、障がい者施設へと、生かしてきました。そして同時進行で、読み聞かせ活動の拠点にと、「きらきら文庫」を中心に「津具語りの会」を発足させました。

さらに「読み聞かせ」の発表の場所にと、「ひびけ！音読フェスティバル」を年に1回開催し、25回を迎えました。フェスティバル会場には、津具地区の初夏の花々が飾られ、名古屋から三河地方から公演を楽しみに多くの人たちが会場を埋めつくし、また、舞台上は子どもたち、高校生、大学生、社会人になった子どもたち、そして母親になってわが子とともに参加してくる子どもたちと、華やか

であたたかく、みんなで紡いできた歴史を感じるのです。

この表彰状とともに歩んできた仲間たちにとっても、私の人生においても、どんなにうれしく、誇らしく、励まされたことでしょう。

これからは、社会的にも子どもたちが少なくなっていく現状は否めませんが、地域の人びととともに歩み続けるためには、親も子どもにどんな本でも手に取り、読むことで、世の中にあること、地域にあること、いろいろなことを知り、話しあうことで、支えあ

ことで、心が豊かになり、励ましあって活動していけるとの確信を持ちました。また一歩、「きらきら文庫」そして「語りの会」を地域に利用していただくこととともに、活動のなかで成長できる私たちでありたいと思います。

表彰式には私の子どもたちも参加できたこと、みなさまのあたたかい励ましを受けたことに感謝いたします。ほんとうにありがとうございます。



第52回 野間読書推進賞贈呈式



「上」渡邊さんが在宅時はいつも開いている「きらきら文庫」。地域の子どもたち、大人たちの笑顔が輝きます
「右」同行のお子さんたち、伊藤忠記念財団のおふたり（後列）、野間会長と



⇒受賞者挨拶を述べる
渡邊満洲子さん

⇒子どもたち（大人も？）の晴れ舞台「音読フェスティバル」



平成34年6月18日 つくグリーンプラザ・ホール

主催 津具語りの会

野間読書推進賞を受けて



乳幼児の読み聞かせに
これからも関わりたい

法崎よし子（大分県）

このたびは野間読書推進賞の奨励賞という素晴らしい賞をいただき、身に余る光栄に存じます。地域の図書館において乳幼児の絵本との関わりを長く続けてきたことを評価していただき、大きな励みとなります。

私は保育士として34年間勤めておりました。退職したところに、市立図書館の「絵本の読み聞かせ」のボランティア募集を知り、応募しました。それから10数年間、図書館の「絵本の読み聞かせ」のいろいろな活動のお手伝いを続けてきました。

そのなかのひとつは、0歳児へ

の「絵本の読み聞かせ」です。市が主催の乳児教室と図書館とが連携してプログラムに組み入れられています。赤ちゃんと家族の方とともやさしい顔で一緒に絵本と向きあっています。

また、市内の幼稚園へは、図書館司書さんが出向いて「絵本の読み聞かせ」を行い、私も参加しています。4月は慣れない園生活に疲れて眠そうに見ていた子どもたちが、卒園前の3月には目を輝かせて絵本の世界に魅了されている姿に、子どもたちの成長を垣間見ることができ、うれしくなります。

毎週火曜日は、乳幼児の親子を対象にした「絵本の読み聞かせ」を図書館内の絵本に囲まれた「おはなしひろば」で行っています。私は手作りの布絵本を使い、手遊びや親子のふれあい遊びを取り入れ、親子が絵本に親しんでくれるように工夫しています。

また、毎年続けてきた「としよかんまつり」はコロナ禍のため縮小せざるをえませんでした。今年の夏は「押し花体験」と「絵本の読み聞かせ」を組み合わせた

ワークショップを行い、34組の親子が参加してにぎわいました。図書館司書のみなさんの仕事に接する熱意や勤勉さに敬意を表しますとともに、私がこれまで続けてこられたのはみなさまの協力のおかげであり感謝しています。

日本全国で少子高齢化が問題になっておりますが、私の地域も人口が減り、特に若い世代と子どもの減少が著しく、心配しています。このことが子どもたちの読書推進活動に影響を及ぼさないことを切に願います。



私はこれからも微力ながら乳幼児の「絵本の読み聞かせ」に携わっていきたいと思っています。



「上」竹田幼稚園で絵本を読む法崎よし子さん。読書の基礎となる乳幼児、幼児期の読み聞かせに力を入れています
「五」今年の夏に開催された図書館でのワークショップには多くの子どもが参加



⇒プログラムには人形劇、指人形も取り入れます



⇒竹田市立図書館で読み聞かせをする法崎さん

野間読書推進賞を受けて



感謝の気持ちと愛情にあふれた父でした

川井田とも子（鹿児島県）
山本清治氏代理

父清治は小学校2年生のときに母親を亡くし、その後の異母兄弟との生活では家の手伝いに加えて子守りも増え、たいへんな苦労の連続だったようです。終戦の小学校5年生のときには、精米の手伝いもし、友だちと遊ぶ時間はなかった代わり、力持ちになって相撲は強く、負け知らずだったそうです。夜のわずかな自分の時間も「電気を消して早く寝なさい」と、勉強も本を読む時間もなかったようです。また、教科書や本もない時代でした。本人は本も読みたかったし、勉強も好きだったと言っていました。高校卒業後、

専門学校に行きたいと父親に話したら、長男だから（兄が戦死したため）家から出さなと言われたそうです。父は87年間、この地を離れたことがありませんでした。そんなこともあり、だれよりも郷土愛も強かったと思います。

昭和の時代ですから、精肉店をしながら養豚や養鶏、また、総菜を売ったりと、寝る間を惜しんで働いていました。60歳で仕事を辞めてからは、趣味の釣りや野菜作りをし、心臓を悪くするまで、犬をつれ、毎朝散歩に行き、途中の玉山神社に参拝していました。いままでお世話になった方々や地域のみなさま、お客さまへの感謝と家族の幸せを祈つてのことと思います。自分が母親の愛情に恵まれなかったぶん、愛情を注いであつたのかも知れません。いろいろな苦勞をしてきた父だったので、人よりも感謝の気持ちを忘れなかったのかなと思います。

いつぱいでした。その式典で、学校や地域についてもっと知ろう、調べようという発表があり、プロジェクターから父の写真が出てきて、ビックリしました。

山本文庫の紹介にはじまり、寄附を始めたきっかけ、どうして本を寄附しようと思ったかなど、質問されている様子が流れました。子どもたちへのメッセージを求められた父は、「私たちは西俣小学校の子どもたちだよ、西俣小学校の卒業生だよと、誇りを持って生活してほしい」と答えていました。

最後に子どもたちが交代でまゝめを発表しました。「私たちが山本さんにお話を聞きに行つたのが、今年の6月でした。その3か月後の9月に亡くなられました。山本さんは自分の体調があ



まりよくないなか、喜んでお話をしてくださいました。山本さんはずつと、西俣小学校のことを思ってくださいていることがわかりました。また、山本さんが寄附してくださったことに対して、鹿屋市や東京で表彰式がありました。私たちはそんな山本さんが寄附してくださった本をありがたく読み続けたいと思います。山本さん、ほんとうにありがとうございます。そして全員で「ありがとうございます。子どもたちの元気で明るい声が父に届いた気がしました。東京での受賞後、子どもたちの発表があるなんて、奇跡のようです。関係者のみなさまに、心から感謝いたします。



「三 逝去後に、西俣小学校から贈られた感謝のことは、「山本文庫」と6月の子どもたちの取材の様子がかがえます
「五」山本文庫の本はすべて、きちんとラベルが貼られています



⇒贈呈式には孫の川井田新介さんがご出席されました



⇒左から、鹿屋市教育委員会 矢野さん、野間会長、川井田さん



萌えぎの会

【上】前橋こども図書館「こどもの日フェスティバル」でのおはなし会
【右】創設当時のクリスマス会



渡邊満洲子さん

【上】きらきら文庫の整備する世話人のみなさん

【左】長野県飯田市で開かれる「いいだ人形劇フェスタ」へのバスツアー

【右】きらきら文庫25周年記念の「ひびけ！音読フェスティバル」



おかわり！ 受賞者活動紹介

今年は例年以上に、受賞者のみなさまから活動写真・資料をいただきました。紙面の許すかぎり、ご紹介します（このページ含め、受賞者活動写真には2020年以前のものも含まれています）。





近江八幡おはなし研究会

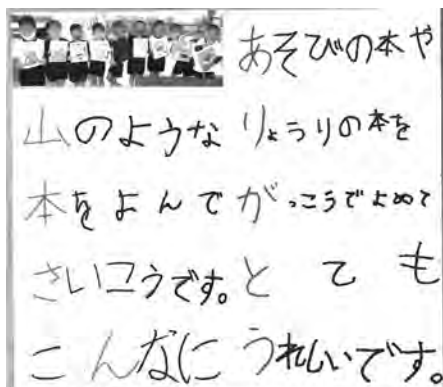
【上】小澤俊夫さんの昔話大学

【右】0・1・2歳への読み聞かせ



法崎よし子さん

竹田市立図書館での読み聞かせ



山本清治さん

西侯小学校の子どもたちからの色紙。

左上の色紙には、縦読みメッセージが隠れています（お名前の部分を加工してあります）



野間読書推進賞 これまでの受賞者からの近況報告

第7回 1977年

団体 加須市民読書会（鈴木貴一さん） 埼玉県

*1962年に加須市立図書館利用者を中心に発足。発足を呼びかけた人は私のひとりでしたが、今年で60年、毎月読書会を継続し、約700回を経過しました。今は県立図書館の集団読書用の本を利用させていただいています。

第21回 1991年

個人 小林静子さん（栃木子ども本連絡会） 栃木県

*3年ぶりに「栃木子ども本連絡講座」をハイブリッド方式で開催いたしました。全国の方々と繋がる機会となりました。現在、来年度に向け、読むこと読むことの毎日です。

第24回 1994年

団体 平川市読書推進運動協議会（金井千都子さん） 青森県

*私どもの団体もコロナ禍の際は、市内各小学校に昔話などのCDを作成し、学校で聴いていただきました。

今年度は、北東北の方々と「お

はなしフェアinひらかわ」を開催し、読書推進につなげたいと準備をしているところです。

個人 清水達也さん（遊本館） 継承者 清水喜久栄さん 静岡県

*清水達也が青春時代に関わっていた同人誌『青銅文学』が紹介された展示「よみがえれ！とこしえの加清純子」が北海道立文学館で開催されたのは2019年でした。新資料発見により、今年1〜3月に同展が再開催されて、うれしく思っています。

第25回 1995年

団体 名寄市の図書会（工藤久美子さん） 北海道

*あいもかわらず、一語一語、一行一行、朗読し、録音図書を作り続けていますが、こんな状況下だからこそ、本があつてよかった、本が好きでよかったと痛感しております。

第31回 2001年

団体 大分子どもの本研究会（甲斐栄さん） 大分県

*本会の取組のひとつ「絵本とわらべうたで子育て」は、例年5月

本年の贈呈式にあわせていただいた、これまでの野間読書推進賞受賞者からの近況報告をご紹介します（文章を一部 割愛しています）。

から始まります。ひと月に1回、1〜2歳児の子育て支援活動ですが、5回目の10月になると、子どもたちの成長がはつきり見えまします。絵本の読み聞かせのとき、みんながおすわりをしていたのしむようになりました。それがうれしい、お母さんや私たち会員の今ごろです。

第35回 2005年

個人 吉永千草さん 熊本県

*コロナの影響で活動回数は少なくなりました。特に小学校での読み聞かせは休止中です。要望のある小学校や保育園では、口演童話活動や読み聞かせその他のことを行っています。

地元図書館でも隔月の「お楽しみ会」で読み聞かせ、紙芝居、ペープサート、パネルシアターetc.など行っています。

第36回 2006年

個人 前田敏子さん（一般社団法人八戸市読書団体連合会） 青森県

*長いトンネルを抜けて、ようやく計画された事業が実施されてき

ました。

当会のメイン事業「作家を囲む読書会」を、当市出身の直木賞候補に三度ノミネートされておられる呉勝浩氏を迎えて開催できました。ブックスタートも10月から開始。11月には県教育委員会からの委託事業「親子ふれあい読書アドバイザー養成講座」を開催。12月には芸術鑑賞会として『月の満ち欠けの映画鑑賞会を開催します。奨励賞 特定非営利活動法人高知子どもの図書館（岡本富美さん） 高知県

*多くの方々に支えられて、2022年12月で開館23年目を迎えます。子どもたちについていねいに本を手渡していくことを大事にしてきたアナログ主流の図書館にも、コロナ禍の影響は大きく、サービスの形を見直す転機となりました。今年5月にリニューアルした「高知子どもの図書館Webサイト」での発信を通じて、子ども

の本を必要としているだれにでも情報を届けられる機会を広げました。空間を越えて本と出会う場をめざしています。ぜひ、Webサイトから訪ねてみてください。

第37回 2007年

個人 萩原栄子さん 群馬県

*80歳を過ぎた今もひとり読書を

楽しみ、時間を持てあますことなく、大好きな紙の本の醍醐味と備忘録を書くことで徐々に心癒やされ、生きる力にもなっている。夫が経営する建築設計事務所の経理事務を50年近くしていた。2年前の夫亡き後は、息子の後方支援として毎日出勤。

夫亡き後の喪失感と寂しさから、仕事の合間に好きな読書したり、読書好きの延長線上で書くことの好きな私は、あえて手書きをし、それをワープロで打ち集めることで逃げた。それは心を癒やしてくれる時間だった。

ひとり生活の私は、子どもたち3人に向けて、私の日々の備忘録も兼ねて、月1編書いている。

読書好きのみなさまへ経験者としてその効用を思い、読書の長い継続をお勧めします。



第38回 2009年

団体 美原読書友の会(奥田歌世子さん) 大阪府

*おはなしの部屋で子どもたちに絵本を読んだり、手遊びをしてにぎやかなことです。年を取りましたが、もう少し続けられればと願っています。

奨励賞 男声読み聞かせ隊 WINGS(小山忠弘さん) 北海道

*ご受賞されみなさま、まことにおめでとございます。ICTの時代にあつても、肉声による対面での読み聞かせのよさは不変です。特別賞 親子読書地域文庫連絡会(三木三江子さん)

*この7月にリアルでの総会を開催し、10月には同じくリアルでのセミナーを開催しました。セミナーは会員であり「子ども文庫が生まれる理由」続ける力、支える仕組み」で博士号をとられた汐崎順子さんをお招きして、論文の内容はもとより、その過程のさまざまな苦勞なども交えてお話しいただきました。対面で語りあえる楽しさをあらためて感じた秋の一日でした。

また2023年は「子どもの本の一年」のセミナー、秋に1日日程での全国交流集会と、いずれりました。

リアル開催にて企画中です。

第41回 2011年

団体 みきおはなし会*絵本の森(西尾美智子さん) 兵庫県

*この2年は、一喜一憂のおはなし会開催状況が続いていますが、繋いでくれる絵本と人の力を信じてがんばります。

第42回 2012年

団体 関音訳の会 しおん(波多野いと子さん) 岐阜県

*関市も連日、3桁のコロナ感染者が出ており、視覚障がいの方々には、外出もままならない、ひきこもり状態が続いておりますので、本のリクエストが多く、会員手わけして録音、CD作りに、お応えしております。そんななか、国会図書館に登録されている会員の音訳本が、全国の視覚障がいの方々から数回もダウンロードされ、関市立図書館とともに喜んでおります。地元の視覚障がいの方々との交流会を早く再開できることを願い、日々、音訳に励んでおります。

団体 人形劇団んまだいしよう(奥登久乃さん) 沖縄県

*コロナ禍で活動がむずかしく、おはなしや人形劇の大好きな子どもたちに会えなくて寂しくしております。



しかし、今年10月23日、沖縄で開催される国民文化祭人形劇フェスティバルに参加いたします。また、12月には市民文化祭も開催され、また活動ができるようになりました。

奨励賞 清水泰子さん(大平町点字の会)どんぐり・麦の会 栃木県

*不穏な世界情勢のなか、読書活動が続けられる、この平和のありがたさを、しみじみと感じております。

世界中のどんな人にも、どんな子どもたちにも本を！と願わずにはいられません。本の力を信じて、点字本を、大活字本を作り続けております。

第43回 2013年

団体 語りの会 はまなす(佐々木真紀子さん) 青森県

*健康面で活動が遠のいてしまっ

方もいて、活動回数を半分にしてがんばっています。地元のケーブルTVに紹介されたことで会員が増えるなど、うれしいこともあります。

地元の昔話・創作紙芝居等制作中！

団体 図書館ボランティアサークル かやのみ会(東合恵子さん) 山形県

*コロナも少しずつ落ち着いてきたかと思われませんが、油断はできません。そんななか、図書館への校外学習を各学校が再開し、子どもたち・乳幼児への読み聞かせが始まりました。介護老人施設はまだまだですが、早く元気な顔がみたいねと、みんなで話しております。

団体 しらはま子ども本の会(坂本美枝子さん) 和歌山県

*今年度は、松岡享子先生を偲んで、松岡先生の著作や訳された絵本、『ゆかいなヘンリーくん』シリーズなどをテキストにしています。

例会では、先生の思い出話をするときもあり、つくづく大きな存在であることと思わされます。私たちは、小さな歩みですが、和気あいあいと続けていこうと思います。

第44回 2014年

個人 成田和子さん 宮城県

*このような環境のため現在活動は自粛しており、自分のために読書しております。最近『わたしの宮沢賢治 豊穠の人』(山下聖美さん著)という本に出会えたことに感謝しているところです。

個人 寺澤敬子さん 群馬県

*9月に県教育委員会からの依頼で「図書館における読み聞かせ」というテーマで県内各小中学校の司書・司書教諭を対象に講習会を行いました。内容は基本的なおはなしのほかに、絵本の読み聞かせや童話の朗読の実演、本の紹介のブックトークなど。

オンライン形式であつたため、戸惑うこともありましたが、遠方の学校からの参加も多く、忙しい先生方にとってはよい機会になったのだと思います。

第45回 2015年

団体 特定非営利活動法人 岩手点訳の会(横澤忠さん) 岩手県

*コロナ禍が継続しておりますが、行動宣言が発出される状況ではありませんから、毎月開催の例会などは3密に配慮し、マスクをしながら開催しています。それでも、参加者は少ないような気がします。小学校や社会福祉協議会な

どからの「点字スクール」の依頼も、今年はわずかですが再開されてきています。恒例の新年会も3年連続中止とし、会食をしない例会に切り替え、「点字のかたるた（小倉白人一首や啄木かるた）」取りなどをして、静かに？交流を図ろうと計画しています。

点訳活動は自宅でパソコンに向かってでもできますが、以前のよう、顔を突きあわせながら点字点訳のあれこれについて話しあえる例会を開催できる日が来るよう願っています。

個人 野々上律子さん（大阪府子どもの本連絡会 大阪府）

*子どもと本に関わる活動は、図書館を拠点に人数制限などの制約は多少ありますが、以前とかわらない状態で講演会も対面での開催などで続けられています。子ども本の力、ことばの力を信じて活動が続けていけることに感謝する日々です。

第46回 2016年

個人 平田恵美子さん（一般社団法人 沖縄県子ども本研究会 沖縄県）

*『読書推進運動』第64号で私の活動報告をさせていただきましたが、学校ボランティアがやっと再開されました。3年生の孫の教室

第47回 2017年

個人 川端葵子さん（のぞみ文庫 宮城県）

*「紙芝居講座in仙台」実行委員長をいたしました。参加者から「たいへんよかったです」とのアンケートをたくさんいただきました。

『仙台弁で語る日本国憲法前文・九条』と紙芝居『ちっちゃいこえ』のセットで、平和を訴えています。のぞみ文庫は月1回続けています。図書館でのおはなし会もなんとかやっています。

個人 浅川玲子さん（特定非営利活動法人 山梨子ども図書館 山梨県）

*地域の子どもたちに読み聞かせをはじめ、さまざまな活動をされ子どもたちの笑顔にはげまされて長い間続けてこられたと思います。子どもたちの心に残るお仕事を継続してください。

第48回 2018年

団体 ねりま地域文庫読書サークル連絡会（木村典子さん） 東京都

*ねりま地域文庫読書サークル連絡会は、2022年9月11日に大阪国際児童文学振興財団理事・総括専門員 土居安子さんをお招きして、「子どもの本の現在（いま）」というテーマで講演会を開催しま

した。157名の参加者があり、盛況な会となりました。

また、個々の文庫の活動についてですが、新しく生まれていくつかの文庫が、絵本と工作の会への参加をSNSを使って呼びかけるなどして、活発に活動を始めます。

団体 たけのこ文庫（章野三保子さん 福岡県）

*秋の訪れとともに、少しずつ子どもとの出会いができて、うれしかぎりです。春は2年ぶりに「たけのこ文庫 絵本ビクニック」を開きました。メンバーも喜々として本をさがす姿が見られ、楽しくもありました。環境がずいぶんとかわりましたが、子どもとともに本のつながりは大事にしたいですね。

第49回 2019年

団体 諫早コスモス音声訳の会（中路美知子さん） 長崎県

*今年度は5名の新人を迎え、34名でスタートしました。月例会は順調ですが、リスナーさんとの交流会は中止。3回目の「交流会CD」は、会員の声とともにリスナーさんの声も入って制作しました。図書館蔵書20冊、プレイベート4冊完成（10月末）。勉強会では基礎に返り、発音・滑舌トレーニング。よりよい図書作りを進めていきたいと思っています。

個人 村上招子さん（家庭文庫ばてと） 広島県

*「左手で奏でる 被爆ピアノ音楽会」に届く絵本と共に「を、10月29日にコロナウィルス感染対策をしつかりして実施予定です。西日本豪雨災害後にコロナ禍となり、孤独な子育てをしている親子がはつとで、平和の大切さを一緒に考えるきっかけになったらと思っています。

個人 今井登美子さん（読み聞かせグループ「ゆめくらぶ」） 大分県

*コロナ禍で活動も制限され、どうしたものかと悩む日々です。このころは少しずつ始まりましたが、こんどはボランティアさんが不足する事態に……。学校でも全クラスに入れなかったり、2年間のあいだに仕事についていたり……。鬼が笑うかもしれないけれど、来年こそ明るく楽しく活動するゾウの意気込みです。

第50回 2020年

団体 おはなしの木（前野麻美子さん） 宮崎県

*いまだ新型コロナウイルスの終息には至りませんが、幼稚園・学校などの語りや絵本の読み聞かせ、大人のためのおはなし会、学校ボラン



ティアへの講座など感染対策をしながら実施しています。

勉強会も月1回ごとに開催し、みな熱心に取り組んでいます。

こんな時世だからこそ、子どもたちには本や昔話の世界が必要なんだという思いで、今後も息の長い活動をしていきたいと感じています。

第51回 2021年

団体 木刈親子読書会（今井智子さん）千葉県

*コロナ対策を万全に行い、年齢別にわかれた6つのクラスで月1回の読書会例会を対面で開催しています。

6月の小学校高学年のクラスの例会では、『卵の実験』（福音館書店）という本を使い、科学遊びをしました。卵を立てさせてみたり、卵の上に板をのせ、子どもが立ったりする実験をして、親子で盛りあげました。

7月は活動の拠点である図書館に指定管理者制度を導入するという動きがあり、署名活動をしました。今後も会員同士の力をあわせて、図書館が直営で健全に運営されるように働きかけていきます。

団体 石垣市文庫連絡協議会（新城由利子さん）沖縄県

*コロナ禍のなかでも、6月に幼

稚園などの平和集会で、平和に関するえほんの読み聞かせを行いました。

「ブックスタート」「文庫連オススメの一冊」も毎月行っています。

これからもえほんの持つふしぎな力を広げ、つなげていきます。

個人 吉井久子さん（家読姉、千代田おはなし会ほか）佐賀県

*コロナ禍のなかでの活動（図書館でのおはなし会、ミニフェスタ）が中止になりましたが、小学校の朝の読み語りは継続し、子どもたちから元気をもらっています。

佐賀県まなび課からの「読み聞かせの効果や方法 実演指導講座」の出演依頼が、10月まで7所（保育園、幼稚園、児童クラブ、ファミリーサポーター）あり、たくさんの人との出会いがあり、私の楽しみのひとつとなっています。

家読姉（うちどくあね）では毎月1回のおはなし会、本の宅配を続け、さらに地域のみなさまへ宅配を広く継続しております。

まで本を届けてもらってありがたい！本を読むのが楽しくなってきた」と喜んでくださると、私までうれしくなります。

来年2月、「紙芝居平和リレー」を親子対象に予定しています。早く従来の日常生活が戻ることを願

いつつ、読書の輪をもっと広げていきたいと思います。

個人 鳥羽啓子さん（ひだまり文庫）鹿児島県

*少しずつですが、活動が元にもどりつつ、子どもたちの笑顔に見える日が多くなりました。

文庫や保育園、図書館等のおはなし会や、講座など、次の世代の方々と日々を重ね歩いていく幸せを思います。

奨励賞 草津点字グループ「あゆみ会」（松田由美さん）滋賀県

*今年は、コロナ禍で自粛されていた地域のイベントに、久々に参加できました。点字で文字を書く体験をしていたら、多くの方に点字というものが、点字で作られた書物があるということを知っていただけました。

図書館の蔵書点訳も、もうすぐ最終章に入ります。完成にむけてメンバー全員、がんばっています。



事務局報告（11月）

☆10月27日・11月9日 第76回 読書週間

・1日「よたかずひこさんと「子ども読書の日」ポスターの打ち合わせ」

☆4日 野間読書推進賞 要項出来

・5日「絵本ワールドin京葉」（城西国際大学東金キャンパス）出席

☆7日 第52回 野間読書推進賞 贈呈式 開催

☆9日 機関紙「読書推進運動」660号 入稿

☆9日「2022年度全体事業委員会」および「第65回 こどもの読書週間 読書推進委員会」第77回 読書週間 読書推進委員会 開催

☆10日 機関紙「読書推進運動」660号 責了

・13日「絵本ワールドinわかやま」出席

☆15日 機関紙「読書推進運動」660号 出来

☆15日「2023 若い人に贈る読書のすすめ」リーフレット入稿

☆15日 株式会社オトバンクと意見交換

☆18日「2023 若い人に贈る読書のすすめ」リーフレット責了

☆18日「こどもの読書週間」読書週間 事業委員会に書類第一 次選考投票を依頼

・18日 文部科学省と「子ども読書の日」ポスターの打ち合わせ（オンライン）

・22日 FM 京都・番組「MORNING SMILE」収録。「若い人に贈る読書のすすめ」を中心に

・27日「絵本ワールドinわかやま」出席

・27日 全国学校図書館協議会「第27回日本絵本賞 授賞式」に出席

☆28日「こどもの読書週間」読書週間 事業委員会に書類第二 次選考投票を依頼

・28日「上野の森親子ブックフェスタ 運営委員会」に出席

・28日「よたかずひこさんより「子ども読書の日」ポスター原画を受取

編集部・事務局のひとこと

《野間読書推進賞贈呈式ご報告》

●受賞者控へ至り、これまでの受賞者一覧を見ていた近江八幡おはなし研究会のみなさんが、「あら、犬井春子さんのお名前がある。犬井さんは、1974年第4回の受賞者で、近江八幡市で活躍された方。また、同研究会は、第8回受賞者の瀬林杏子さん（一時、近江八幡市にお住まい）とも縁があるとのこと。同研究会の長い歴史を再確認しました。

●会長含め4人で出席の萌えぎの会。事前に、「挨拶では全員登壇したい」との希望がありました。どんな形になるだろうか？と思っていたら、手作りの牛乳パックからくり絵本やびゅんびゅんごまの実演を披露。びゅんびゅんごまは、行きの新幹線で作ったそうです。これまでの実演の積み重ねがあつてこそ「早業」と、感服いたしました。

●渡邊満洲子さんはお子さん方とご出席。贈呈式後に、「幼いころ、父の転勤で東京に住んでいたことがありました。当時の思い出の場所を、今回子どもたちが案内してくれて、楽しかった」とお話をいただきました。なお、当時の思い出は「2・26事件」もあるそうです。

●今年6月、西俣小学校児童の取材を受けた山本清治さん。贈呈式で孫の川井田新介さんが、「それまでかなり体調が悪かったのですが、その日はピシッとスーツを着、背筋を伸ばして、子どもたちを迎えました」と当日の様子を、紹介。

山本さんのあたたかく、真摯なお人柄が伝わるスピーチでした。（伸）